



蘭畹摘芳抄録

大槻宗基書本

洋学文庫  
文庫8  
A 41



特  
休  
93

蘭畹摘芳抄錄



大槻文庫

ハラテ井スホーエル

ヒブ子ル及ウイツノ書ニ曰ハラテ井スホー  
エルハ羅甸語ニテアヒスハラジシアカト名  
ク羽毛華彩光耀觀ルニ堪タリ世ニ甚タ珍重  
ス都兒格ノ属地ハラテ井スヨリ産スト云フ  
後コレヲ審ニスルニ都兒格地方ノ産物ニ非  
ス東方印度諸國ヨリ出スモノニメ特ニ  
馬古諸島ヨリ産ス呼テマユコシアタト云  
是其方言也昔時ハ此鳥無足モノト思ヘリ今

之ヲ明ニスルニ印弟亞人其足ヲ切テ四方ニ  
致ス者ヲ見タルガ故ナリ土人其足ヲ去リ自  
然ニ足ナキモノトシ其奇狀ヲ人ニ欺キ利ヲ  
射ニ一ヲ欲メナリ多ク繩笠ノ頂ニ縫ヒツケ  
テ世ニ轉輸ス今此諸島番達ニ屬シ和蘭併セ  
有ツノ地トナルガ故ニ今ニ至テハ毎々其足  
ヲ具スルモノモ得ルナリ

茂質按ハラテイスホーブルハ此ニ云フ風  
鳥ナリ風鳥ノ名何ノ書ニ出ス所乎未ダ考

索セス恐クハ譯家等ノ命シタル者ナラシ  
乎南懷仁坤輿外紀曰瓜哇島處有鳥名無對  
無足腹下生長皮如筋纏于樹枝以立身毛色  
五彩光耀可愛不見其飲食意唯服氣而已ト  
說ケルモノ此風鳥ナルベシ此說某ト云ル  
西書ノ翻譯力知ルベカラズ其說無足ト云  
モノハ舊說ニ因循シタルナルベシ且其無  
對ト名クルモノ解スベカラズ對譯乎義譯  
ノ字乎俱ニ考ヘガタシ其形狀ニ因テ考フ

レバ極テ此物ナルベシ今茲戊申朝貢ノ和  
蘭醫士突都兒ト云人此鳥ノ雌雄三四翅ヲ  
齎ニ來レリ請フテ之ヲ觀ルニ其中全身黑  
色光彩ノモノアリユレ其雌ナリト云フ余  
等未ダ曾テ見サル所ノ奇品ナリヨシメト  
ント云人著ス所ノ禽獸譜ニ其圖說ヲ審  
ニス其文至テ浩繁他日之ヲ譯メ以テ其詳  
ヲ盡ントス今惟其約說ヲ譯メ其概畧ヲ示  
スト云フ

天明戊申孟冬末五 玄澤 大槻茂質譯

風鳥 無對鳥

花冷<sup>ハシ</sup>的<sup>テ</sup>印<sup>イ</sup>日<sup>ニ</sup>印<sup>イ</sup>弟<sup>テ</sup>亞<sup>ア</sup>產<sup>ア</sup>ノ異鳥ノ中ニ「バラテイ  
スホーゴル」ナル者アリ「バラテイ」ハ大虚ノ  
「ナリ」其中ヲ飛翔スト云ヨリメ古來「バラテ  
イスホーゴル」ト云フ原トコレハ附會ノ説ナ  
レ凡能ク之ヲ辨明スル者ナレ昔時波<sup>ポ</sup>尔<sup>ル</sup>杜<sup>ト</sup>瓦<sup>ガ</sup>  
尔<sup>ル</sup>ノ人「ギロ」及其近傍「バプー」諸島並ニ新

爲<sup>ガイ</sup>匿<sup>子</sup>亞<sup>ア</sup>國<sup>ア</sup>ヨリ求メ來リテ名テ「バツソロ」テソ  
此ト云フ譯メ日鳥ト云「ナリ」然レドモ又「タ  
テ」ルナア「テ」ニテ呼フ所ノ方言ニ「コ」ヌ  
コ「テ」ワ「タ」<sup>別名「コ」ヌ</sup>ト云コレハ神鳥ト云フ「  
ナリ」<sup>其土俗神佛ヲ稱シテ「コ」ヌ又</sup>此等ノ名  
ノ起ルハ此鳥モトヨリ足ナシト云ヨリ其  
奇ヲ稱セシガ爲ニ命ケタルナリ今之ヲ著實  
シタルノ話説ヲ次ニ述ブ昔ヨリ傳フル所ハ  
此鳥空中ヲ飛翔メツイニ地ニ落ルモノヲ見

タル人ナキヨリメ起レルト見ヘタリ然レモ  
アルウヨリ年々<sup>ハ</sup>ン<sup>ク</sup>ハ齎シ來リ和蘭ノ人  
毎々之ヲ正シタルニ足ナシト云ハモト意ヲ  
用サルノ愚人等漫リニ此名義ニ惑サレテ浮  
説ヲナシタルナリ蓋昔時<sup>ポ</sup>ル<sup>ト</sup>杜<sup>ガ</sup>瓦<sup>ル</sup>人及其  
他ノ人々モ以前ヨリ此地ニ往來シタレモ實  
ニ足ナシト思ヒテ其説ヲ取用ヒタリ然レモ  
今之ヲ能詳ニスルニ全ク妄誕ノ説ナリ宜ク  
之ヲ排斥スベシ其惑ノ因テ來ル所ヲ考ルニ

モト皆距ヲ去ル者ヲ取テ來レルガ故ナリコ  
レハ其土人常ニ其足ヲ斷チ全躰ノ腐朽ヲ防  
キ貯フレバナリ且<sup>モ</sup>レ<sup>レ</sup>ヒノ人此鳥ヲ用テ  
兜<sup>亮</sup>ニ注メ頂ノ飾トナスニ用ヒ易ク妨ケニ  
ナラヌヨウニ切り去ル<sup>ト</sup>ナリ且<sup>モ</sup>レ<sup>レ</sup>ヒノ  
人世ヲ欺キ自然ニ足ナキ者トナシ多ク利ヲ  
得ンガ爲ニスル也又其兜ヲ頭上ニ戴テ軍陳  
ニ出テ或祭祀ノ日ニハ各々頭ニ戴キテ<sup>テ</sup>ス  
ヤカリヒト名クル舞踊ヲナス鎗或劍ヲ手に

持テ挑ミ合ヒ舞ヒヲドルト等ヲナスナリ昔  
ヨリ「アル」ノ人ハ固ヨリ足アル者トスル也  
然ルヲ世ニコノトヲ知ラズメ其妖妄ノ説ヲ  
傳播シタリ窮理家ノ如キハ嘗テ之ヲ明白ニ  
セリ已ニ「アント」ニウスピガヘトト云人「ベル  
ドマゲラー」ノ紀行書ニ千五百二十五年ニ  
之ヲ明覈ニシタル説アリ是ヨリメ世ニ之ヲ  
明ニスルトヲ得タリ其後ノ諸選述家「ゲス子  
リュス」「アルドロハン」ジュ「フランシス」ユヘルナン

テ「エウセブ」「イレンベルグ」等ノ書ニモ前  
説ヲ着破シタル明解アリ又「カロ」リュスタ「リュシ  
ウ」区ナル者ハ未ダ曾テ直ニ此鳥ヲ見ルトナ  
ケレモ已ニ千六百五年ニ足アル者ヲ「アムス  
テル」ダムニ貿易ニ來ルモノヲ見タル人アル  
トヲ説ケル書アリ

又此鳥固ヨリ地ニ下ルトナキモノナレバ人  
能ク之ヲ詳ニ考ベキヨウナシ而初條ニモ云  
ガ如シ此物多クハ虚空ノ中ニ在テ高木ノ上



ニモ下リ止ルト云フモ至テ少ナリ其躰甚々  
輕浮ニメ其羽翮ト其尾ト甚々長大ナルカ故  
ニ再ビ立テ飛上ルヲ能ハザルナリ若風勁メ  
後ヨリ吹マクラル、ヲアレバ毎ニ地下ニ落  
ルヲアリ如此ノヲアル寸ニ之ヲ生ケ捕リニ  
セント欲スルニ其養ヒ方及食餌トナス者ヲ  
辨ゼス又至テ人ニ馴レズ擊猛ナル性ニテ動  
モスレバ人ニ咬ツクナリ之ガ爲ニ容易ニ畜  
ヒ遂クルヲ能ハズ故ニ土人初ヨリメ之ヲ打

殺スト云フ百年以前「バジュア」ノ地ニテ刻スル  
所ノ「テリシアイタリア」ト云小冊ニ昔時「バ  
ジュア」ニテ其生ケル者ヲカヒヲキタル者ヲ見  
タリト説ケリ甚不審ノヲナリ如何トナレバ  
其土人スラ生キナガラ畜フヲハナラネト云  
ヘリ況ニマ「バジュア」ニテ畜フヲハ決メナラヌ  
筈ナリ

此物東方諸國ニ産スル者分テ六種トナス皆  
稱スルニ「バラテ井スホーゴル」ノ名ヲ以テス

然レモ又別ニ其形色地産ニ因テ其名ヲ別ク  
我輩之ヲ七種玉鳥ノ族ニ属ス此物其六種ノ  
品類各其名ヲ異ニス一曰「ゴロヲトアルセ」  
ハラデ井スホーブル二曰「ケレイ子パウセ」  
ハラデ井スホヲブル三曰「ゴロヲテスウルテ」  
ハラデ井スホヲブル四曰「ケレイ子スウルテ」  
ホーブル五曰「ウツテハラテイスホーブル」六  
曰「ランベケンテスウルト」  
其一「ゴロヲトアルセ」ハラテイスホヲブル

躰ノ長サ二尺四五寸許幅一手横徑ホドアリ  
是ハ其緊縮壓匾シタル者ヲ計ル所ナリ其頭  
躰ニ比スレハ長フメ直ナリ嘴長ク且剛其色  
青白全軀恰モ羽箒ノ如シ其嘴ノニ色彩ヲ異  
ニメ頭頂ヨリ頂ニ至マテ柑子色ナリ眼ハ甚  
細小ニメ黒シ頸ハ深緑ニメ恰モ「スマラグト」  
緑色ノ玉石ノ名ノ如シ其毛柔ニメ天鷲絨ノ如ク且  
甚タ透明ナリ胸ハ黒ク亦天鷲絨及細羽毛ノ  
如シ翼ノ大サ其鳥ノ躰ニ称フ色茶褐色ニメ

強キカサキリ羽アル鳩ニ似タリ下躰ハ甚ダ  
長ク直ナル羽毛アリ淺赭色ト黄色ト交レリ  
其両側ハ薄キ細毛ト疎ラニ細條ヲ生スル  
駝鳥ノ翼ノ如シ其羽ヲ開屏スレハ自ラ圓ク  
ナリテ扇ヲ開キタルガ如シ脊上尾翹ノ所ヨ  
リ黒フメ至テ強キニツノ絲ノ如キ者ヲ生ス  
其尾ヨリモ甚長シ其狀絲ノ如クナレ凡稍末  
ニ至テサラサラシテ細毛アリ其先シタル鳥ニ  
テハ至テ剛フメ撓ムベカラズ其ノ生鳥ノ如

キハ如何ナルカ未ダコレヲ詳ニシガタシ且  
其用ヲ爲ス所以亦辨ジガタシ

自第二種至第六種未經譯俟他日

野羊

即ヤギ

伍乙志ツ曰野羊羅甸語曰「ヒルクス」和蘭名「ホツク」呼牡曰「ゲイト」

角 主治驚癩下利 削墨兒シヨクニ曰解諸毒

脂 和結潰堅故ニ硬軟諸膏ニ配スルモノ多

削墨兒シヨクニ曰止痛又蠟燭ニ作ル

髓 削墨兒曰強神經然其用少

血 曝日乾用主治發汗緩急開發壅閉或脇痛  
咽腫小水滯等服量自三分三厘強至二錢

削墨兒曰碎石淋解諸毒和凝血利小水及月  
經ヘルモント曰取精囊中血用者其功殊爲  
勝

兒脂 能和堅緩急

膽 解散熱毒又和蒸餅雞子白月桂油爲屢方  
按臍上最効

革 削墨兒曰上皮ヲ剥ギ取リサラシテ赤黒  
等ニ染テ袴ニ作ル或ハ袋ニ作ル油酒ニテ  
ルヘンテ井ニ等ヲ能ク収貯フモノナリ

肉 削墨兒曰有毒其性難消化爲食料中之下  
品故無供藥用

塔刺不花

真珠船  
澀水燕談

太兒百亞

羅甸語

木爾

此云鼯鼠

鼯鼠ハ常ニ地下ニ住スル所ノ小獸ナリ煨爲  
霜ヲメラーツヘー止及ビシケウルボイクニ用  
テ甚ダ効アリ外症ニ之ヲ施スベキモノハ蟹  
腫及ビシケウルボイクノ狀ヲ見スノ切ウト  
ズウレルレシ腫鹽ニ用テ良ナリ

杜鵑

羅甸呼曰鳩鳩留斯一名哥烏谷鳥和蘭謂之骨  
鳥古骨鳥古其啼ク聲ヲ取テ即名トス羽毛淡  
黑色所在ニコレヲ産ス或曰此鳥自ラ巢ヲ爲  
クルト能ハズ他巢ニ寄テ子ヲ生ク即其他鳥  
ニ託メ撫育ナサシム且此鳥四五年ノ齡アリ  
ト云フ

茂質按前説ハ非蒲涅兒ノ載スル所ナリ勇  
斯東私ニ就テ考フルニ其説至テ詳ナリ蓋

此鳥性寒ナル故子ヲ生テ後自ラ懷抱メ養育スルヲ能ハズ毎ニ他巢ニ託スト云フ其寄托スル所ノ鳥三種アリ未詳一種ハ報春鳥ノ族ナリ又按ニ此鳥ノ名其啼声ヨリ得ル所ナリト羅甸ニハ「キツキ」又ハ「ユウ」ユウト云ヒ和蘭ニハ「クーク」トイハ支那ニ不<sup>ホ</sup>如<sup>シ</sup>歸トイハ我邦ニハ「ホヅン」カケタカ「テツ」ペシカケタカ又奥中ニテハ「ホツ」トサケタカノ類各國ノ人皆云フ彼レガ自

ラ啼ク聲シカリト未タ何レ真ナリヤ知ルベカラズ顧フニ此等ノ類皆其国々其人々ノキ、ヨウノ心シダイニテドノヨウニモ聞ユ凡ソ鳥ノミニアラズスベテ音響アルモノ此方ヨリノムカヒ方ニテイロクニ聞ヘルナリ假令ハ狗吠ヲ此邦聞ク所ワシナルニ韓人ハボク<sup>ト</sup>ト聞ユトイフ時計ノ響カツチ<sup>ト</sup>ト聞ユルニ和蘭ノ人ハ「ツキ」トキユトイヘリ皆人ヨリノムカヒヨ

ウニテイロニカワルナルベシ貝原翁  
ノ説ヲ按二十王經ニ鸚鵡鳥ノ音別ホト都頓キ空  
壽ストナクトイヘリ然ルニ本邦ノ人誤リテ  
鸚鵡ヲ杜鵑ナリトス故ニ杜鵑ヲホト、ギ  
スト訓ス亦誤リナリ今ホト、ギスト云フ  
モノハ杜鵑ナリ鸚鵡ハ本草綱目ニ載セタ  
ル鸚ホト嘲ナリ然ルヲ順和名抄ニ鸚ホト、  
ギスト訓ズ倭書ニ又郭公布穀トスコレハ  
別物ナリトアリ茂質按スルニ萬葉集ニウ

グイスノカイユノナカノホト、ギスト云  
ヘル長歌モアレハホト、ギスト誤マリ訓  
スルト年久シキト思ハル今鸚ホト、  
杜鵑ノ和名トナリタルト追正スベカラズ  
上古ハ我邦ニテ此鳥ヲ何ト名ケトニマ且  
杜鵑ノ種類多キトヨリ報春鳥ノ巢ヨリ杜  
鵑ノ出タルヲハ往々見タル人アリトテソ  
レニツキイロトキ、オケルトアレドモ事  
長ケレバト、ニ畧ス



ヲクリカニキリ  
主治腸胃諸症癩聚疔毒脇肋刺痛或解諸熱毒  
且利小便

オクリカニコロム

和蘭語ケレニ  
フトヲーゲニ

伍乙志曰酸味ノ變諸症ヲ爲スモノヲ治ス

蘭說

飲食尅化酸味ニ變スル  
モノ諸症ノ因トナル

故治「カ」テ未癩疔心

脇刺痛或壯熱及「ア」フガアンデユールツカ潮熱

内外金瘡ニ用ユル「ア」常ニ知ル所ノ如シ

削墨兒曰酸味ヲ調化シ調化諸液淨血通小便

下大便閉結止血及嘔吐能瀝ラシ乾カス等ノ

切アリ

一角

茂質云一角ノ諸説ハ既ニ余ガ六物新志及浪華ノ木世肅ガ請ニ因テ譯スル所ノ一角纂考ニ盡セリ次ニ出セルモノハ蘭化先生一角辨ノ抄録ナリ余已ニ言ヒ及ボシテ全カラザル所モアレバ其諸條ヲゴ、ニ抄ス纂考中ニハ精説ヲ盡シタレバ彼是參考メ其真説ヲ得ベシ

ナルワルト云者一書ノ説ニ依ルニナルアル

ト云リ「ナル」トハ「タル」ウニ「ランド」ト云國ニテ  
 獸魚等ノ交易シテ甚ダ利益ヲ得ルヲ云フ言  
 ナリト云ヘリ此國ハ北方僻遠ノ地和蘭ヨリ  
 五百里ノ許西北ニアリ其海  
 濱ニノ人家アリ其北ハ夜國及氷海ナリ其「アル」ト云者ハ即チ海  
 鱈ヲ呼フ名ナルベシ此魚即海鱈ノ一種ナリ  
 海鱈ヲ和蘭ニテ「アル」ヒスト云フ曰「列」ハ  
 ト云義ナリ凡ソ和蘭及其近國ノ海人「列」ハ  
 ンラ往來シテ南海中ニ在ル「アイスランド」云  
 者多シ故ニ徑ニ「彼國」ノ言ヲ傳ヘテ其ノ「アル」  
 ト云ヨリ轉シテ「アル」ヒ「列」ト云ヘル者ナル「列」  
 ベシ知ル然レバ「ナル」アル「ト」云フハ大利ヲ得ル

ノ海鱈ト云ノ義也是其長牙アルニ係テ此称  
 ヲナス者ナリ  
 又一書ニハ「ナル」ヲ以テ「ウニ」ル「区」ノ本  
 名トシテ是ハ「アイスランド」ニテ呼フ所ナリ  
 ト云ヘリ按ニ「ウニ」コル「区」ハ彼魚ノ上齧ノ前  
 端へ着タル一株ノ長大ナル牙ナリ然ルヲ其  
 牙ヲ以テ重貨ノ交易ヲナス故却テ牙ト云義  
 ニ及バズシテ單ニ其魚ノ名而已ヲ呼テ常ニ  
 通シ称スルナルベシ

又此書ヲ撰ム者ハ彼古言ニ云フ一角ノ義ハ  
虚名ナレバ乃此物ハ産スル地ニテ常ニ呼フ  
所ヲ以テ質實ナリトメユレヲ擧テ本名トナ  
シタルベシ吾邦ニテ海鱈ノ鱈細工鱈尺等ト  
作リタルヲ單ニ鱈細工鱈尺等ト  
呼テ其鱈ヲ通稱スル  
ヲ以テ想ヒ見ルベシ  
大凡「ウニ」ノ真物古昔ハ西洋ニモ甚稀  
ニシテ民間僅ニ其屑末ヲ以テ藥用トシ或ハ  
其小片ヲ得ル者ハコレヲ佩テ護符トシ所謂  
諸毒ノ害ヲ被ラズト其尊長ノ甚シキヲ知ル

ベシ彼全角ノ如キハ唯王侯ノ家ニユレヲ秘  
藏シ或ハ好事ノ貴族特ニ其長大ナルモノヲ  
求ム其最ナルモノハ殆ンド丈許ニ至ルモノ  
アリ故ニ彼先輩陸獸如此角アルヲ疑テ議  
論紛々トメ竟ニ一定ノ説ヲ得ルヲカシ彼ノ  
「ボ」ゴドイ「チ」ト云國ニテ撰タル禽獸譜ナル  
者ヲ閲スルニ馬躰ニシ額上一長大ノ角ヲ載  
キ前ニ向テ直生セル形ヲ出ス又星象ノ圖中  
ニテ「メ」ノセロス「ト」名ル者アリ其形昂ユレニ

同シ按スルニ「メソセロス」トハ「ギリイキ」ト云フ古国ノ言ニテ昂獸ニ一角有リト云ナリ義喜竊思ニ星象ハ上代ニ利未亞ト云一大洲ノ中「エチプチ」国ノ人コレヲ制作シタルモノナリ是ヲ天文學ノ權輿トス乃其最古キ「知ルベシ」此「エチプチ」国ハ彼「ナルワル」ノ出ル地ヨリ遙南ニ隔ル「約スル」ニ直徑一千二三百里儼然トメ別世界ナリ其真ヲ詳ニセザル「亦空ナリトス」但此物ノ「こニアラズ」或ハ人馬飛馬雙女野人仁魚蛇髮等異類奇駭ノ

形像ヲ擧タリ想フニ是唯特ニ奇怪ニシテ却テ記憶シ易キニ取テ固ト其物ノ有無其説ノ虚實ニ拘ラザルモノナリ然ルニ後世ニ至テ故有テ和蘭ノ人「グルウ」ランド及「エイ」スラ「ン」ト海中ニテコレヲ得テ始テ魚牙ガ「ル」ヲ知タリ但其名ハ古來ヨリ方書等ニ傳ヘ來リタルヲ舊ニ仍テコレヲ稱スル者ナリ

爸羅骨斯

此云蓬砂

**釋名**

决列伊梭革刺

刺甸厄勒桑的兒那刺

迦必私多留模亞烏利

刺甸亞烏利角拉金膠甸

之義言ハ金匠此物ヲ細末メ金愕留甸亞烏

利刺甸 爸羅骨斯 和蘭 愕烏鐸拔烏牌伊尔池

兒和蘭此 愕烏鐸列伊模 同此譯

伍乙志 其撰書一號 曰爸羅骨斯ハ諸金石屬ヨリ

出ス鹵液ニメ其石中ヨリ滴流シテ凝堅シ就

ルト云其質凡テ粗朴其色澤ハ出ス所ノ礦條

又梅伍乙  
志六百九  
十八號曰  
サルナチ  
与ス一名  
クイニト  
与ムナチ  
与ハラビ  
ジシミツ  
ヒエキス  
多ケレイ  
ソコツラ  
ハヘ子ツ  
チスオン  
ヒシキツ  
俱羅甸和  
蘭謂之ケ

ニヨリテカワリアリ金ノ礦條ヨリ出スモノ  
ハ其色黄銀ヨリ出ルモノハ白ク銅ヨリ出ル  
モノハ綠色鉛礦ヨリ出スモノハ黑色ヲナス  
磐水子梅ニ此物舶上ニ未ダ見ザル所ナリ  
爸羅骨斯一名決列伊梭革刺ノ條ヲ考ルニ  
別ニケレ井ソコツラト云モノアリ一名ヒ  
リジ区曰リテモレタヒ和蘭ニハルダゲ  
ルレヒ又スレテイングルーヒト云フ此ニ譯  
スレバ山緑蓋此物銅ヨリ出ルモノト云或  
ハ又云ク未ダ分明ナラザルモノト各處ノ

ガラーヘ  
ンホラク  
ス

販生藥ケスリヤコレ天生ノ物ニメ石ノ如キモノナ  
リト云フ色緑細小ニメ粒々ヲナシテ砂末  
ノ如シ金銀銅共ニコレヲ出ス特リ翁加里  
亞ノ諸山ニ産ス甚貴重ニメ希珍トナス品  
類數種アリ上中下ノ三品ニ分ツ其質能乾  
テ深緑瑩徹ノ顆粒ヲナスモノヲ上好トス  
然レ凡鉛粉スパンスゲルウシヲ以テ擬製ス  
ルモノアリ空クコレヲ擇ブベシ畫家コレ  
ヲ取テ綠色ニ用ユ又別ニ金石屑ヨリ出

ス決列伊梭革刺ト名クルモノアリ所謂爸  
 羅骨斯ハ此物ヨリ出テ成ルモノナリ故ニ  
 世皆多ク爸羅骨斯ニモ此名ヲ呼ブ則チ愕  
 烏鐸列伊摸ナリ金ヲ鐸ニハ此物ヲ鎔シ用  
 エルナリ故ニ消金工專ラユレヲ用ユ又ケ  
 レイソコツラヒツシリス又ケレイソコツ  
 ラゴロボサアリスコムホ込ト云モノモア  
 リ盤水子再按ニ此説ニヨレハ一種ケレ  
 井ソコツラト爸羅骨斯ヲ出スケレ井ソコ

伍乙志百六  
 九十又曰  
 又別ニ一  
 種其色白  
 キモノア  
 リコレハ  
 煨煉成ル  
 亦ラク区  
 ニシテ勿  
 樽垂ニテ  
 製造ヲ爲ス

ツラハ同名異物ナリニ物共ニ和蘭地方ノ  
 近傍産セサル所ニメ未タ分明ナラサルモ  
 ノナリ本文前條ノモノハ一種ノモノヲ説  
 クニ似タリ  
 此物天工ノ外ニ勿<sup>ヘ</sup>子<sup>チ</sup>チ<sup>チ</sup>ア<sup>ア</sup>其<sup>其</sup>地<sup>地</sup>在<sup>在</sup>于<sup>于</sup>地中海<sup>中海</sup>ノ地<sup>地</sup>ニテ人  
 多ク造製スルモノアリ其法ハ深ク人ニ秘メ  
 傳ヘズト云然レモ大凡其法ヲ知りタル者ア  
 リ消石ニテ作ルトイ、又消石ヲ取テ童便ヲ  
 以テ煎熬スト云フ顧フニ特リ消石ノミヲ以



ホツトア区  
一種灰名  
ホコレシ  
モスコヒヤ  
等ヨリ出ス  
詳于伍乙  
志書百七  
十二葉

テ造ルニ非ス「ヨリイニタールセソウトコロ  
イ止」一名「カリアリカリリスソウ止トモ  
云フ草ヨリ取ル鹽和漢産未詳」ヲ加ヘ  
製スル者ヲ以テ真正ノ切用アリテ上好ノ品ト  
ナスト云フ

盤石水子伍ウラ乙志ノ撰書二百九十九號ヲ按ニ其説ニ  
迦里ハ亞臘皮亞言乃テ鹽ト云フ「ナリ人  
皆」ホツトア区灰ヲモ通用メ此名ヲ称ス鹽氣  
多クアルヲ以テナリ原称「エゲブチス」厄日多コロ  
イ止元ト此草ノ鹽ヲ取り製スルヲ以テナ

リ則「ホリイニタアルセ」ソウト。我方又此物  
ヲ以テ「ソダ」或ハ「イスガリエム」ト称ス「サル  
ソラ」ト云フモノ、一種トシ「アンシリツリ  
ス」アルテ「ラ」又「アルテラ」サルサトモ云又「カ  
リゲニモラ」一名「サリコルニカ」刺甸和  
蘭呼テ「カラツペク」アド「コラール」コロイ止  
ト云モノアリ其草性自ラ鹽氣多シ故ニ其  
味鹹シ熱國ノ海濱ニ生ズイス把バ你ニ亞アノ人  
コレヲ此ニ移シテ裁蒔ス其仁ヲ取テ「ポツ

トアス「ヲ作ンガ爲ナリ此物真正ノ「サルア  
ルカリ」ナリ

註ニ云ク「サルアルカリ」ハ草属ニメ其諸種  
所在コレヲ産ス又<sup>子</sup>涅伊<sup>イ</sup>牒<sup>イ</sup>兒<sup>イ</sup>卵<sup>イ</sup>土<sup>イ</sup>ノ洲中ニ  
モ生ズ殊ニ「セイランド」和蘭七洲之一ノ海濱ニ生  
ス其草長サ三尺許生長スルモノ、如キハ  
四尺有五六寸餘ニ至ル蔓衍繁茂メ枝朶ヲ  
分ツ長直ニメ甚ダ太シ葉ハ狹長ニメ厚實  
末梢ニ向テ漸ク尖圓且葉梗刺棘アリ汁内

ニ充實ス花黄ニメ重瓣殆ンド圓形狀ノ實  
ヲ結フ甚ダ多肉ニメ仁子内ニ充ツ恰モ小  
虺蛇ノ蟠リタルカ如シ蓋此草取テ藥用ニ  
供ス主治利小水通月經留飲蓄水諸症服之  
其毒自大便瀉下與之可用微許過量則甚有  
害「セイランド」ニテ又此物ヲ「セイカラツペ  
ト云フ

硝子<sup>ヒイトロヤ</sup>エハ是ヲ「アルヒメンカチユ」和蘭名「ス  
モウトソ  
ウ<sup>ト</sup>「ア」<sup>ス</sup>ト名ク則チ此草ヨリ取ル所ノ鹽

ヲ云ナリ其色灰白其仁子大小ヲ論セヌ取  
テ煨キ製スルモノニメコノ物ヲ以テ光淨  
透明ノ硝子器ヲ造リ出ヌニ用ユルナリ此  
草我歐羅巴洲中分ツテ四種トナス其一ハ  
アリカンテセ又ソウテテアリカンテ一是第  
種  
ナノ別種 其二ハ「カルタゲニセ」又「ソウテテボ  
ウルテ」其四ハ「ソウテテセルボウルグ」也  
又伍乙志十六百九  
號所説ノ「サルアルカリ」ノ本  
條ヲ按スルニ「サルアルカリ」ハ和蘭呼テ「空

イセンレーキアルカリセソウトト云フ此  
物異邦ノ海州ヨリ出ス鹽ナリ其草呼テ「カ  
リ」ゲニキテ又「アン」テツトト名ク其色  
白且灰白仁子大小數品ヲ取テ煨テ鹽ヲト  
ルナリ伊斯把泥亞國海岸ノ地ニ「コ」ノ草ヲ  
産ス石灰ヲ煨ク如ニメ鹽ヲトルナリ造硝ビイド  
ロ  
子家專ラコレヲ用ユ透明ニメ水精狀ヲナ  
ス硝子ヲ作ルニハ此物ニ非サレバ製シカ  
タシト云フ故ニ硝子家コレヲ呼ンテ「ソ」

ナルエルニア「ナルソ此」アルメンカチニト  
ト云フユレヲ和蘭語ニ翻スレバ「酸シールソ  
ウ塩ト」ス溶メルトソウ塩ト「アヌソウ塩ト」ナリ  
又磐水子度鐸ト奴ト私本草ノ圖説ヲ按スルニ  
カリト云草三種アリ其圖説甚ダ詳審ナリ  
其一ハ「カリ」又「アルカリ」其二ハ「白ツテカリ」  
其三ハ「ベコノツプテカリ」又カリコト云フ  
又其附録ニ「ゴロトカリ」ト云フ一種ヲ附  
ス共ニ四種アリ皆灰及鹽ヲ出ス「トヲ説ケ

リ赭鞭家深ク搜索セバ和漢産スル所ノ生  
植中此物ニ充ルモノアラシキ世ノ利用厚  
生ノ爲ニ此物著レシ「トヲ希フモノナリ  
其精品ナルモノハ「オーストインヂイ也」歐羅  
リスベテ其東方ヨリ産ス則チ錫蘭島ヨリ出  
諸国ヲ指メ云フ「天竺」我地方ニ輸  
スモノ也」梵ニ云フ磨訶多国所謂  
シ來リテ後再ビ水飛シ精製ヲ施シ其猥雜ナ  
ルモノヲ除キ去ルナリ又或人ヲモヘラク此  
物全ク一種製造ノ鹽ナリト其所説ノ方左ノ

如シ

「カ」ル。アムモニアキ」消石 食鹽 「空井」ニ。ス

テ「」ニ。葡萄酒精結成其器底者諸説ヲ採スル

キアリ其ノ初メ酒中不潔粘液ノモノ。或赤或白

ノ四味ヲ合シ製煉シタルモノト云

磐水子梅ニ「カ」ル。アムモニアキ」ハ先輩礪砂

ニ充ツ未ダ當否ヲ知ラズ。伍乙志ノ書ヲ考

ルニ九百九十八號「カ」ル。アムモニアキ」ハ和蘭呼

テ「カ」ルミ「アカ」ト云天生人巧ノ二種アリ其

自然ノモノハ利未亞亞臘皮亞等ノ熱國ニ

産ス其地ノ駝馬及其他ノ諸獸熱焦シタル

沙地ノ上ニ尿リシタルモノ日光ノ爲ニ射

ラレ自ラ煎熬セラレテ凝成シタルモノナ

リトコレ其真品ナリ又擬製ノ物アリ「カ」ル

アムモニアキ」ム。ハクチチウ」ト云フ和蘭呼

テ「カ」ル製造「ク」テ「カ」ルミ「ツカ」ト名ク其方

人尿 五十錢 食鹽 十錢 「ス」ヨールステー

「ン」ルト「止」スヨールステーハ煤則所著烟窓之煤也

右三味共ニ塙ニ入レ蓋ヲ覆テ固封シ上武  
火如法升煨シテ結成片ヲ爲スニ至ルコ  
レヲ<sup>尋常</sup>ゲメ<sup>子</sup>ソウ<sup>塩</sup>トアムモニアトナリ

又「ボメ」<sup>人名</sup>ノ考ニ曰此物印度ヨリ舶シ來リ  
未ダ再製ヲ經サル粗朴ノモノニ二品アリ其  
一品ハ自ラ赤色ニメ油膩アリ其一ハ色灰白  
ナリコレハ<sup>ヘ子ナ</sup>勿<sup>ア</sup>穉<sup>ア</sup>亞ノ人此物ヲ水中ニ投メ化  
シ澄シ棉條ヲ以テ収メ取り晒シ清ストイフ

然レモ此等皆未ダ隨テ考ヘ定メタルヲナキ  
ナリ諸說皆云此物惟表面粗朴ニメ白色透明  
ナルモノヲ擇テ真種トナスベシ間々雜ユル  
ニ礬石ヲ以テ質造スルモノアリ宜ク意ヲ著  
テ監定スベシ

此物醫療方ニ施シ用テハ能ク分挽ヲ促シ生  
ヲ催サシメ專崩漏下血甚キ者ニ用テ切アリ  
亦能ク死胎ヲ下ス外科者流コレヲ取テ諸創  
ヲ淨シ且贅肉ヲ消ス畫家綠色ノ用ニ供ス亦

漆工コレヲ用消金匠銀工家此物ヲ用テ諸金  
ヲ消スル等ノ錫藥トナス

非蒲涅兒其書百四曰勃羅骨斯苛涅太一名亞

心加爾ハ質透明光瑩其物性ノ如キハ未ダ分

明ナラザルモノナリ今時ニ至ルモ尙未タ詳

ニ知リ窮メズ或天生ニ出ルモノトイハ或ハ

人巧製作ニ成ルモノト云フ其状透徹皎白ナ

ル鹽ニテ外面氷凍ノ如ク又明礬ノ如シ其味

辛淋過灰汁ノ如シ此物多ク勿釋子ナ亞ヨリ度伊

都卯土ラシドニ致ス各地ノ人取テコレヲ水飛精製

ス和蘭語厄利亞イリスニ有モノ亦度伊都卯土ヨリ

轉送スルモノナリ而カモ又一方ノ功用アル

トヲ説ケリ又和蘭人ノ説ニ錫蘭セイロンヨリ出スト

云フ又或説ニ此物應帝亞インディアノ「チルベリス山ノ

傍ヨリ流溢シ凝固結成スルモノヲ多ク採リ

得ルト云フ其上好ノモノハ外粗ニメ皎白光

淨明瑩ナリ然レモ、明礬ヲ以テ偽造スル

モノアリ空コレヲ擇ブベシ銀匠コレヲ用テ

金銀ヲ鋸ス又能ク諸金石ヲ柔ニス醫家亦此物ヲ取テ催生方ニ用

列墨カ伊イ百百十十此物百百尔尔西西亞亞等ノ諸國ニ産シ

土坑ノ中ヨリ穿出スト云フ色澤光瑩恰モ刃

テ石ンソ塩ウトノ如シ味鹹少帶辛色赤油膩多

キモノアリコレヲ脂トボラクトト云此方

アアブララホホウウシシ色澤ハ各地ノ産ニヨツテ種々

アリ勿子穉チ亞ア及和蘭ノ人此物ヲ水飛精製スル

了諸般ノ鹽類ヲ水飛スルガ如クス先水ニ投

シ化シ瀘シ清シ煮テ晒シ清スコレヲ我方ニ

致シ來メ名ケテ「ゲソイヘルテボラク」此ト謂

透キ又蓬拂キ郎砂察國ニテモ亦能精製シ甚ダ光瑩

ナルモノアリ

此物空シク色皎潔美好能晒メ透明且硬ク能

乾キテ塊片ヲナスモノヲ撰擇スベシ容易ク

濕氣ノ出サルヨウニ収メ貯フベシ性能ク物

ニ透徹ス

主治開下膈膜之穢里兒閉塞者消肝脾固結腫



且通月經服自六厘強至三分三厘強又外科方  
肌肉瘡腫ヲ消散ス

又煨煉家鑿製水飛スル法アリ余等審之自下

三條可解不此餘鑿製ノ法種々アリ余今此物

可解故譯闕ヲ取テ考フルニ諸說皆從來決定シガタキモ

ノナリ就テ熟察スルニ原ト是天造全ク諸金

礦條ヨリ出ス鹵液ニメ自ラ尿臭及礪砂ノ如

キ鹹味ヲ固有メ凝固結成メ少シク油氣ヲ帶

ブル鹽ナリ又此物製造ヲ以テ成スモノアリ

其大要ヲ知り得ルニ焰硝ト明礬トヲ人尿ヲ  
以テ拌勻上炭火煮和メ乾枯凝堅ニ至ルヲ度  
トナス人其伎巧ヲ爲ント欲スルニ臨ンテ意  
ニ任セテ他物ヲ加ヘ諸巧ヲ作スベシ

近來船上ニ蓬砂ヲ輸サズ頃ロニ至リテハ四  
方此物ニ乏シク絶ニアルモノモ價常ニ百倍  
ス故ニ醫家ノ用藥金銀匠ノ錫藥闕品トナリ  
嗟嘆スル者少ナカラズ醫家ハ他藥ヲ代ヘ用  
ユベシトイヘ斥消金工諸家ノ如キ殆ンド其  
業ヲ廢スルニ至ル頃ロ聞ク本街ハ一藥舖ニ  
三斤ヲ購リ得テ鬻クニ半日ナラザルニ貨リ  
盡ス後レテ來ルモノ求メ得ザルヲ以テ疑ヒ  
且罵テ曰毒商世ノ闕品ヲ知り深ク収メテ奇

貨ヲ求ントノ謀策ヲ爲ストテ羣リ來ル數人  
其家ヲ毀ントスルニ至レリト又聞ク頃ロ此  
事ヲ官ニ聞ス 官速ニ儲蓄ノ 御藥ヲ出シ  
數斤ヲ頒チ賜シトナリ然レ斥數十家ノ頒布  
ナレバ一家僅ニ一二錢ノミ得數多ノ巧用ニ  
充テ難ク益々窮困ストナリ余因テ和蘭諸書  
ニ就テ考索スルニ<sup>ホラ</sup>羅骨斯<sup>クス</sup>ト稱スルモノ所  
謂蓬砂ナリ依テ其諸說ヲ讀テ前文ノ譯ヲ作  
ルニ原ト此物歐邏巴洲中ノ産セザル所ニメ

皆傳聞ノ説ヲ集録スルノミ故ニ分明ナルヲ  
ヲ得ズ其製造ノ一方勿釋ヘ子チア亞ニテ製スルモノ  
アルカリスト云フ鹽ヲ加フルト云フ方決メ  
錒藥トナルベシ然レ凡此草熱國ノ産ナレバ  
漢土木邦ノ産アルマジキ子然レ凡セイラン  
ト五十度前後ノ出地ノ國ニ移レ種ヘテ蔕生  
ストアレバ必シモ我方出スマジキトモイ、  
カタシトト云フ所説四種ノ圖状ヲ精熟ノ  
楮鞭家ニ示シ其人意ヲ用テ搜索スルトアラ

ハ此草世ニ著ハル、トモアラニカト前文中  
其草ノ大畧ヲ譯セリ且此草ヨリ出ス鹽譯文  
中ニ如所説ノモノナレバ諸工匠ノ要用トナ  
リ本邦未ダ發セサル諸般ノ精巧成ルトアリ  
テ洪益多カルベキ子又其一方四味煨煉ノモ  
ノモ試ニ製セントス故ニ造成硃砂法モ俛セ  
譯ス又漢人ノ諸説ヲ考フルニ地產物性共ニ  
詳審ヲ得ズ是尚殊方遼遠ノ物ナル故ヲ以テ  
ナリ意フニ其西番ニ出ルトイフモノハ勿釋

亞ノ産其南海或南番ニ出ルト云ハ則意蘭島  
ヨリ致スモノナルベシ再ヒ顧フニ漢土ニテ  
金銀ヲ錫スル法其原ト西洋ヨリ傳ヘ錫藥モ  
又共ニ送り輸シタルト見ヘタリ本邦亦其  
法ヲ再ヒ傳ヘ受ケタルベシ前ノ譯文其物ノ  
大畧ヲ知ルト漢說ニ稍優レリト今ハ凡闕品  
多キヲ如何カセシ若シ世ニ深ク廣濟ニ心ヲ  
用ル人或ハ伎巧ノ事ニ意ヲ精フスル人此等  
ノ西說ニヨリテ頓ニ機智ヲ生シ發明新製ノ

世ノ裨益トナスコトアラシカト其人ヲ族ント  
シテ西醫諸說ノ譯文畧ヲ作レルト然リ又主  
治功療ハ漢說ト大ニ異ナリ俱ニ譯シテ撰生  
家ノ考證ニ具ス  
寛政庚戌仲秋  
盤水子識

頃再ヒ採スルニ救荒本草ノ鹹蓬ハ此方海濱  
ノ地出ス所ノハマナハマツナリ形状「カリ  
コロイト」ノ類ニ似タリ莖葉ヲ採テコレヲ嘗  
メ試ムルニ味ヒ鹹シ古ノ所謂藻鹽ヲ製スル  
法ノ如クシナハ「アルカリ」セソウト「ヨ」得ベキ  
カ後者ヲ採ツ者ナリ又同僚工藤氏ナル者境  
屋某ト云フ人新製スル所ノ蓬砂ヲ以テ余ニ  
示スコレヲ視レバ眞品ニ違フ「ナク」メ且錫  
金ノ用舶上ノ物ト同シ何等ノ物ニテ製造ス

ルカ未ダ詳ニセズ

鮮荅

伍乙志曰警族亞兒ハ獸類ニ出ス所ノ癖石ナ  
リ東西諸州ヨリ産ス其西方ヨリ出スモノ羅  
甸呼曰警族亞兒屋悉鄧打亞利私此ニ譯スレ  
バ物私多印度亞安池警族亞兒ト云フ義ナリ  
其狀外粗扑ニメ其色黦大小形狀一ナラズ解  
之則層々爲數薄片其片東方産スル所ノ者ニ  
比スレハ頗ル厚シ伊斯把你亞及波尔杜瓦  
爾國人亞墨利加洲ヨリコレヲ索メ得來ル就中

百露國ノ地多クコレヲ産スト云蓋其癖石ヲ  
出スノ獸類甚多最野羊諸品中ノ胃内ニ生ス  
ルモノヲ上品トス多クハ老獸ノ胃中ニ此物  
ヲ生ス其品類ヲ辨別スルハ外面ノ形色ト其  
大小トヲ以テ分ツナリ大抵其色ハ灰白ナル  
アリ或ハ黒ヲ帶テ而メ白色ヲ錯ルアリ又青  
斑文ヲ帶ルアリ此類外面ヨリノ鑿定區別甚  
多シ其形ハ渾圓ナルアリ或ハ鈍圓或ハ方ナ  
ルアリ其大小モ亦數品アリ多クハ東方ノ産

スルモノヨリハ甚大ナリ其大ナルモノハ  
鳩卵ノ如キアリ又雞子大ノモノアリ其功用  
ノ如キハ東西ノ産俱ニ相同ジト云然<sup>レ</sup>西方  
ノ産ハ其色澤頗ル青ヲ帶フルヲ異ニス此品  
東方ノ者ニ比スレハ甚ダ上品ナリ貴重シテ  
コレヲ收貯フヘシ殊ニ其石裏面光輝アリテ  
條理アル者ヲ良品トス百露國出ス所ノモノ  
ハ最モ貴重ニシテ新<sup>イ</sup>伊<sup>ス</sup>斯把泥<sup>ニ</sup>亞國ヨリ輸シ  
來ルモノナリ若此品缺漏スルトキハ鹿玉ヲ

以テ換ヘ用フベシ是原ト其功用ヲ同フスレ  
バナリ傳染ノ諸病ニ用ユルノ良劑ナリ而シ  
レ熱毒傳染諸險症ニ施スニ當テハ眞品ニ非  
ラザレバ功驗ヲ奏シガタシ鹿玉ノ比フベカ  
ラサル所ナリ

主治強健心志或下石淋及胞衣或曰取此石掛  
于指頭保持則催睡眠云然一二之所試未盡其  
明證姑記俟後者

警<sup>ベ</sup>族<sup>ソ</sup>亞<sup>ア</sup>爾<sup>レ</sup>其東方ニ産スルモノ羅<sup>ラ</sup>甸<sup>テ</sup>呼<sup>フ</sup>曰警<sup>ベ</sup>族<sup>ソ</sup>

亞爾阿里印答里私此二譯スレバ阿俣斯多印  
度亞安池警族亞爾ト云フ其石柔軟ニメ滑澤  
アリ大小形狀數種アリ外面青色ヲ帶ルモノ  
アリ或ハ青黑色ナルモノアリ解之則爲數薄  
片其質ハ甚夕脆軟ナリ其狀恰モ葱根ノ層々  
トメ相重疊スルモノ、如シ氣味馨香ナキガ  
如シ此物百爾西亞及東方諸國ヨリ舶來ス野  
羊牝牡俱ニ胃中ニ此物ヲ生ズ殊ニ上好ナル  
者ハ斯的列拔奴摸ノ地方三日程僕分索法島

二出スモノト又齊狼ト穀邏滿埵兒トニ屬ス  
ル島中ニ産スルモノトナリ是則應帝亞沿海  
蘆兒峴達ト稱スル地ナリ野猪胃中亦此物ヲ  
生ズ其春夏ノ交ニ生スル所ノモノヲ以テ佳  
品トスコレ其藥草及灌木等ノ初生嫩苗ヲ噉  
テ胃中此物ヲ結成スルガ故ナリ又或家猪胃  
中ニモ此物ヲ生ズ或ハ十二枚餘ヲ結スルア  
リコレラハ外ヨリ其腹狀ヲ按察メモ知ル、  
モノナリ此物大ニ輕重ニ依テ其價ニ差等アリ



リテ世ニ貿易ス故ニ或ハ贋造ノモノ多ク其  
贋造ノ法數多アリ甚ダ巧ニ偽製スルモノナ  
リ然レモ其正偽鑒定ノ諸法アリ其真ナル者  
ハ自ラ滑澤アリテ青色ヲ帶フ是天然固有ノ  
質ナリ刮磨メ爲末則爲黑青色或ハ紙上ニ磨  
メ官粉及白堊等ヲ用テ工レテ塗レハ青黃色  
ヲ爲ス又水中ニ投スレバ沫ヲ噴ガ如ク汗ヲ  
發スルガ如クナルナリ其贋造ノモノハ熱手  
ヲ以テ之ヲ持テ或ハ熱湯ニ投スレバ則爲柔

軟也又熱尖鉄ヲ以テ之ヲ貫ケバ則乍チ煙ヲ  
起ス又水中ニ投スレハ或ハ重キアリ或ハ輕  
キアリ此等皆偽製ノモノナリ

此石世ニ愛玩貴重ノ收貯フ其真ナル者ハ癸  
汗之良劑也性芳烈恰如編砂丁香等之香料及  
經復留骨索烏多之製方故臨與之勿使過服單  
服自一厘六毛強至二厘三毛強爲率

按ニ此物應帝亞呼百鐸羅擊族亞尔此方俗  
間ニ所謂苛伊撒拉拔沙刺者昂チ是ナリ蓋

シ苛伊撒拉ハ百鐸羅拔沙刺ハ警族亞爾俱  
ニ西語ノ轉聲ナリ梵石ヲ呼テ曰百鐸羅警  
族亞爾ハ獸名蓋シ野羊ノ類ナリ坤輿外紀  
曰渤泥國有獸名把雜尔似羊鹿腹中生一石  
療百病極貴重至百換國王藉以爲利ト云フ  
西人皆獸石ヲ以テ警族亞兒ト通稱スルモ  
ノハ原ト此獸ノ胃中ヨリ得ルヲ以テナラ  
ン皆各勻シク是癭石ニメ漢ニ所謂狗寶猿  
枣羊哀馬黑鹿黃等ニメ一々是同物ナリ又

漢通メユレヲ鮮答ト云フ鮮答未ダ何ノ意  
義タルヲ知ラズ顧フニ異邦ノ語ニ字音  
ヲ填ムルモノナルベシ和蘭舶上從來齋來  
ルモノ我邦往々珍藏スルモノ多シト今ヘ  
凡其東西ノ真偽主治功療等ヲ辨ズルヲ  
知ラズ故ニ今此ニ譯メ其主療鑒定及其由  
テ出ル所ト其轉訛等ノ語原ヲ詳ニシテ世  
ニ示サントスルノコト

伽羅摸拔骨

所謂伽羅

伍ミ志イノ書第百二十五號曰「カラムバク」ハ  
 ラデ井スホウトトノ一種乃チ其木ノ中心ヲ云  
 フ「タムバク」ノ地ニテ甚貴重スル所ナリ其類  
 三種一ヲ「アスパル」トト曰ト子レ此ト品ハ  
香木ナレト別物ト思ハ  
 ルト云ニヲ「アガロ」トト曰ト阿ト迦ト一ト名ト「セイロアロ  
 正ト云ユレ等ハ其地方ニテ目撃スル所ナリ  
 其第三種ハ見ルト甚々稀ナリ故ニ之ヲ齎シ  
 來ス者少シ然レト貴介大人ノ如キハ印度地

方ノ諸王侯ヨリノ贈リモノ有テ藏スル者アリト云フ

同書第二十四號ニ曰「アカロキム」ハ一名「リグ

ニムアロエ」一名「セイロアロエ」和蘭呼テ

「アラデ井スホウ」アラテ井ハ地名昔時此國ニ産スト云又「アロ

エスホウ」蘆薈木名取純苦字ト云フ即香木片ニテ

「カラムバクス」木ノ中心ナリ交趾ニ産ス其状

堅實重厚脂氣ヲ帶フ黒條理アリ之ヲ嚼バ舌

ニ粘著ス火ニ掺レバ其香爰スベシ氣味香竄

ニメ辛苦其ノ上好ノ品ハ堅重ニメ黒紫色ヲ

帶ビ純苦ノモノナリ主治強健心及頭顱或子

宮性温暖ニメ悦喜ノ功アリ外ヨク「エビテマ

」ノ方中ニ配スエビテマハ「ボルス」ノ一種ト

水等ヲ取テ小袋ニ入ル脈上或ハ額ナドニ按

スヨク強頭或ハ「カ」トトルホヲフ止又心ヲ強

クスルナリ非蒲澄兒第三十三號ニ曰「アロエホウ」ハ脂

氣アリ神氣ヲ強クスル奇藥ナリ然レハ歐羅

巴中ニテ求得ルヲ難シ印度地方異邦ニ産ス

22

其樹大サ膽八樹ノ如シ其上好ノ品ハ色黯赤  
ニメ滿面麤理膏澤堅潤ニメ甚ダ重シ水ニ沈  
ムルニ其底ニ至ラズ世ニ香料ニ用ユ味純苦  
ニシテ澁シ胃ヲ淨フシ且強フス大便ヲ通シ  
虛弱ヲ調フ其餘功驗多シ勞瘵鬱症等ニ用テ  
甚効アリ膽汁滿溢スル病ニ他藥ニ配シテ用  
エルトキハ甚奇功アリ  
鐸度涅烏斯<sup>ト</sup>第一千四百五十六號ニ曰ク此木  
一種ノミナラズ種々アリ殊ニ<sup>リ</sup>リダ<sup>ム</sup>アロ

23

エス<sup>レ</sup>ヲ貴ブ即チ<sup>ハ</sup>ラ<sup>テ</sup>イス<sup>ホ</sup>ウ<sup>ト</sup>ナリ又<sup>ア</sup>  
ガロ<sup>キ</sup>ム<sup>ジ</sup>ヲス<sup>ユ</sup>リ<sup>テ</sup>ス<sup>ト</sup>云モノアリ藥局  
ニテユ<sup>レ</sup>ヲ分ツニ數種アリ  
アガツロ<sup>キ</sup>ム<sup>ハ</sup>ジ<sup>ヲ</sup>ス<sup>ユ</sup>リ<sup>テ</sup>ス<sup>ノ</sup>説ニ曰ク  
此木印度及比亞蠟皮亞ヨリ舶來ス其状<sup>チ</sup>ニ  
ア<sup>屬</sup>ニ似テ皮ニ點アリ且ツ薄メ膜ノ如シ  
味ヒ澁フメ微苦佳香アリ香道ニ用テ甚ダ良  
シ<sup>ア</sup>ガ<sup>ロ</sup>キ<sup>ム</sup>ノ如シ又<sup>ガ</sup>ル<sup>シ</sup>ア<sup>ス</sup>ア<sup>ブ</sup>ホ<sup>ル</sup>ト  
ノ説ニ此ノ正真<sup>ノ</sup>アガロ<sup>キ</sup>ム<sup>一名</sup>アガ<sup>ロ</sup>エ<sup>ス</sup>和蘭

語<sup>ハ</sup>ラ<sup>テ</sup>イ<sup>ハ</sup>特<sup>シ</sup>印度ニ産<sup>シ</sup>テ其皮厚<sup>キ</sup>ト  
ス<sup>ホ</sup>ウ<sup>ト</sup>他樹ニ異ナラズ<sup>ハ</sup>ア<sup>カ</sup>ロ<sup>キ</sup>ム<sup>ハ</sup>ヨ<sup>リ</sup>早<sup>ク</sup>此  
方ニテ自在ニ取り用ヒタリを價賤<sup>ク</sup>甚<sup>ダ</sup>多  
ク之アリ<sup>ハ</sup>ア<sup>ロ</sup>エ<sup>ス</sup>ハ<sup>求</sup>メ<sup>得</sup>ル<sup>ト</sup>至  
テ稀ナル木ナリト云リ<sup>コ</sup>レ<sup>正</sup>真<sup>ノ</sup>ア<sup>ロ</sup>エ<sup>ス</sup>  
ア<sup>ロ</sup>エ<sup>ス</sup>ヲ<sup>説</sup>ク<sup>所</sup>ナ<sup>リ</sup>然<sup>モ</sup>一<sup>種</sup>ナ<sup>リ</sup>他<sup>ハ</sup>皆  
數<sup>種</sup>アリ  
ア<sup>ロ</sup>エ<sup>ス</sup>ノ<sup>正</sup>真<sup>ノ</sup>者<sup>ハ</sup>其<sup>枝</sup>葉<sup>膽</sup>ハ

樹ニ相似タリ或ハ膽ハヨリハ大ナルモアリ  
其花ノ状ハ未ダ之ヲ詳ニセズ<sup>セ</sup>ラ<sup>ビ</sup>ク<sup>ノ</sup>説  
ニ其實赤メ圓ク形胡椒ノ如シ此木乾枯ノ者  
異常ノ香アリテ愛賞スルニ堪タリ<sup>中</sup>  
心ヲ用<sup>工</sup>如何トナレハ此木皮厚ク尤甚ダ貴  
重メ貯フルナリ其色黯赤ニメ黒ヲ帶テ灰白  
色ノ條理アリ且堅重潤澤脂液ノ氣ヲ含ム<sup>コ</sup>  
レハ<sup>エ</sup>ル<sup>シ</sup>ウ<sup>ス</sup>ナル者<sup>波</sup>ル<sup>杜</sup>瓦<sup>ル</sup>ニテ見<sup>タ</sup>  
ル所ニメ皆東印度ヨリ齎<sup>シ</sup>來<sup>ル</sup>所ナリ甚<sup>ダ</sup>

秘藏ニ貯フト云其揀擇ノ良方アリ點火脂液  
多ク出ル者ヲ佳トス本性重キ者ナレトレ  
ハ上品ニ非ズ試ニ水ニ沉ムルニ浮ムモノヲ  
最上トス印度亞ノ人ハ殊ニ大塊ナル者ヲ珍  
重ス思フニ用テ其功力多ケレバナリ  
「ベ子ジイ」ノ藥舖ニテ上好ノ「ハラテイ」ニホウ  
「ト」ト云モノハ白黒ニメ黄赤色ヲ帶ブ脂氣ア  
リテ重シ水ニ投スレバ沈ム味澁シヨク乾枯  
スル者ハアマリ苦ミナシ火ニ點メ煨ケバ其

香愛スベク滋潤ノ氣出ル「紫相」ホツクホウ  
「ト」ノ如シ其色モ甚ダ相似タリ其種類ヲ次ニ  
説ク

「エイロアロエ」ハ藥局ニテ別種トナヌ「カバ  
ニ上好ノ者充ツ」切テ片塊トナス質重ク其色白黒ニ  
メ黄赤間色ヲ帶ヒ黯赤ノ條理アリ香味前ニ  
説ク物ノ如クナレト其美香苦味甚ダ勝レリ  
トス質潤滑ニメ蠟ノ如クニメ白ヲ帶ビ易碎  
脆キ者ナリ且香竄ノ藥氣ナシ

此別品ハ其色種々アリ或ハ「アスパル」左「ト」  
爲ス白メ青白或赤黄色ニメ黯色條理アルモ  
アリ或ハ枝朶アリ幹塊アリ此類ノ木ヲ「左イ  
ア」トナス又「左イア」ノ如ニシテ「セイペル」  
ニ相似タリ

又別種印度亞ニテ「アグイラブラ」ト云者ア  
リコレ「リケ」ムアロエスシ「左エ」ステ「ト」名  
クルモノナリ印度ノ法ニ其屍ヲ焼ク片ニ此  
香木ヲ以テスト云フコレ香木ノ一種ナリ然

レ正眞ノ「リグ」ムアロエスニハ非ズ  
此類異種多シ其外形全ク眞ノ「リグ」ムアロ  
エスニ似テ一躰香ヒナキモノアリ「リグ」ム  
ロ「ジウ」ムト云テ「アガロ」キムニ充テルモノア  
リ「ウ」ルリウスハ「アガロ」キムノ種類ヲ分テ  
四品トナシ香木類ノ異種トシ能ク「アガロ」キ  
ムノ種ニ似タルモノ共ニメ則「ロツベル」アル  
セ「ル」等ニテ藥舗ニ貯フル者ナレ「レ」按スルニ  
コレハ絶テ「アガロ」キムノ類ニハアラズ紫檀



ノ類ナリ又思フニ「アスバル」  
「ス」ハ一物ナリ猶コレヲ詳ニスルニ「アガツロ」  
「ク」ハ「ゲール」サンドルホウ止ナリ





